

<白金標準、6月19日の高値4437円を目標に強気維持・・・>



(出所：オアシス)

1ヵ月前の6月15日に中国人民銀行は1年物短期貸出金利を引き下げ、17日には中国国務院が会議を行ない市場は経済対策の期待感が高まりを示していたが、中国国務院からは何も発表はなかった。また中国の政策金利に等しいローンプライムレートを0.1%引き下げを発表したが、市場は期待を裏切られ失望売りから中国の株価や人民元は大きく売られている。そのため19日以降、中国の景気低迷の要因から白金標準先物は4437円から4090円まで下値を試すなど売られている。ただ今週に入ると南アフリカでは、寒冷前線の通過に伴い気温が低下し、電力需要の上昇と緊急メンテナンスの遅れに伴いステージ3をステージ4、13日にはステージ6と負荷制限を引き上げている。また中国政府は、不動産開発会社に対して債務返済を1年延期の発表、規制強化していたハイテク会社に対しても中国首相が支援を行う発言するなど景気対策に動き出している。特に今週は1ヵ月前の再来で中国GDP、鉱工業生産、小売売上高、中期貸出金利、ローンプライムレートの発表を控えており、基調の変化と合わせて4437円へ向けた巻き戻しに期待感が高まると思われる。

<テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDが上昇し、シグナルも上昇している。またRCIでも短期が上昇し、長期も上昇するなどオシレーターは強気を維持している。そのため日足が200日移動平均線は超え、40日移動平均線の抵抗を受けるが、下値は限定的であり強気を維持するのが妥当と思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 3,250,000 円(2023 年 7 月 18 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 87,120 円(2023 年 7 月 18 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>